ビジネス変革を ワンストップでサポート

オプテージ
ソリューション事業推進本部
ソリューション開発部 IoTビジネス推進チーム
マネージャー 山本 克美氏

―オプテージについて教えてください。

「当社は関西電力グループのケイ・オプティコム、関電システムソリューションズ、関西電力のIT部門が統合して新たに生まれ変わりました。コンサルティング、システム、インフラのサービスを一体化することで、お客さまの幅広いニーズにワンストップで応えていくのが目的です」

―IoT分野に力を入れています。

「2018年10月に本格的にサービスを始め、製造業向けサービスを主軸に製造業のお困りごとをIoTでみまもる『オプテージのみまもりIoT』を展開。〝人〟〝工程〟をみまもり、製造現場の生産性向上をIoTで支援しています」

―具体的にはどのようなサービスですか。

「〝工程〟をみまもる『しぐなるWatch』は、生産設備の信号灯の明滅を感知して、遠隔で稼働状況の把握を可能にするシステムです。各色のランプに照度センサーを装着しブリッジを経由して親機にデータを送ります。お客さまの声からさまざまなメーカーの明滅パターンに対応しました。センサーは後付け式で既存の設備でもすぐに設置可能です」

―〝人〟向けサービスもありますね。

「19年夏にスタートしたのが『みまもりWatch』です。これは、現場作業員の体調を管理者などの第三者が遠隔で管理できるサービスです。各現場で作業員が装着する腕時計型の端末から、皮膚温度や心拍、GPS位置情報といったデータを収集。工場内に設置した温湿度センサーと組み合わせて、異状があればメールで管理者に知らせます。熱中症の危険度は、医師の知見を基にした独自のアルゴリズムを採用しました。加えて、転倒検知機能が備わっており、夏場だけでなく冬場や夜間の単独作業といった場面でも有効です」

―興味を持たれた顧客へメッセージを。

「情報通信の分野は日々進化しており、お客さま自身が追いかけることが難しくなっています。当社は情報通信のプロフェッショナルとして、お客さまのニーズに沿って最適なご提案をいたします。関西電力グループの企業として、信頼や安心・安全を最優先にすることを心がけています。ぜひお気軽にご相談ください」

―従来のリアル開催の展示会の重要性をどう捉えていますか。

「法人ビジネスでは、お客さまとのFace to Faceの場は重要です。展示会は、商談だけでなくお悩みやご指摘から製品の改善のヒントにもつながり大変貴重な機会です。今後も展示会で多くのお客さまとの出会いに期待しています」

（大阪市中央区）

旗印は「技術商社」 生産技術を顧客の手に

SKソリューション
代表取締役社長 村田 俊明氏

―SKソリューションは、どのような点を特長としていますか。

「オムロンの全額出資子会社で、『技術商社』を旗印にした生産設備などのコンポーネント販売、エンジニアリングが最大の強みです。工場の建物さえあれば、中身は設置工事を含めてすべて手がける自負を持っています。自動車やデジタル、鉄鋼、造船に加えて3品産業と呼ばれる食品・医薬品・化粧品など、九州に製造拠点を置く大手企業のほとんどに納入実績があります。特に最近は『協働ロボット＝SKソリューション』との認識を広げるべく取り組んでいます」

―協働ロボを前面に打ち出していますね。

「安全柵不要で人と隣り合って作業できる協働ロボは、大手を中心に認知が進んでおり、人手不足や新型コロナウイルス感染予防として密を避けるため、引き合いは増えています。例えば家電やレトルト食品のメーカーで実績があります。ある飲料メーカーでは工場内の搬送にオムロン製の協働型搬送ロボ2台を導入してもらいました。作業スピードは必ずしも速くありませんが、24時間稼働できます。不具合時も人で代替できることは意外に大きなポイントです。また製造現場は多品種化・大量生産でライン変更の周期が早くなっています。ラインに後から追加できる上、工程間を移動して異なる作業をさせられます」

―ショールームを福岡市に置いています。

「オムロン製だけでなく、デンソー製、ABB製も扱っており、本社ショールームに常設しています。デモだけでなく直接触れて体感していただけます。お預かりしたワークでのテスティング、3Dプリンターで製作したフィンガー＋ロボットハンドの検証もやっています。ロボ本体だけでなく周辺機器もあるため、早期に検証結果を出せます」

―手を広げたい分野はありますか。

「自動車関連のサプライヤーが一つです。ビジョンシステムを備えた協働ロボのアームで部品をピッキングし、搬送ロボに載せ替えます。部品を受け渡して、最後は外観検査までするような、人とロボが共存するシステムを提案したいと考えています。もう一つは人手不足が深刻な中小規模の食品業界。予算やスペースの面で難しいケースもありますが、社会貢献として解決したいです」

―顧客に向けて呼びかけたいことはありますか。

「当社では技術とサービスが一体になり、コンサルティングを含めて提供します。画像部門もいますので、テスティングや教育も手がけています。ほとんどの相談には応えられます。モノづくりメーカーに代わって、当社が実績を踏まえてソリューションを提供できます」

―今後の展示会ビジネスをどうみますか。

「リアルの展示会は、アプリケーションに触れていただく有効な場と考えています。多くのお客さまに協働ロボットを知っていただくため、今後も積極的に参加していきたいと考えています」

（福岡市博多区）

九州最大級の製造業の祭典 WEBで本日、初開幕

「モノづくりフェア」は1968年の初開催以来、開催回数は35回を数えます。製造業関連としては九州最大級。2019年はマリンメッセ福岡（福岡市博多区）に全国から出展者約400社・団体、会期3日間で来場者1万8844人を集めました。

今回のオンライン開催を経て、21年には10月13―15日の日程でマリンメッセ福岡においてリアル展示会を再開する計画です。政府や自治体、業界団体などの定めるガイドラインに準拠し、主催者だけでなく出展者、来場者の新型コロナ感染防止対策を徹底します。

「逢（あ）うチカラ　強さツナガル」のメッセージとともに、ウィズコロナ時代の展示会のあり方を発信し、対面による出会いの価値を再認識していただく機会にしてまいります。

人と社会の豊かな未来を創造する
モノづくりフェア 2021

会期
2021年
10月13日(水)⇒15日(金)
10:00～17:00（最終日は16:00まで）

会場
マリンメッセ福岡

主催
日刊工業新聞社

2021年1月より
出展募集開始！

●モノづくりコーナー　●環境・エネルギーコーナー　●危機管理コーナー
●IoT・AI・SIコーナー　●九州自動車生産推進コーナー　●産学官連携・団体PRコーナー
●3次元設計・開発・プリンターコーナー

展示会のお問い合わせ／日刊工業新聞社 西部支社 展示会事務局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町1-1　TEL.092-271-5715 FAX.092-271-5881　E-mail:monoinfo@media.nikkan.co.jp
詳しくはコチラ! モノづくりフェア 検索 https://www.nikkanseibu-eve.com/mono/

エンジニアリングで 課題解決する商社

ツバコー九州
代表取締役社長 東 良浩氏

―ツバコー九州は、どのような点を強みとしていますか。

「当社は『エンジニアリング商社』と称していますが、工場や物流施設での自動化に対して、要望に応じた部品と設備をダイレクトに提供できます。椿本興業の全額出資子会社である点だけでなく、親会社以外の多様な調達網も強みです。当社のお客さまは、同時に仕入れ先であることも多く、相互に信頼関係を築いています。さらに韓国やドイツをはじめ海外部品も幅広く調達できるため、多様なニーズに応えられます」

―既存顧客はどのような分野ですか。

「自動車、製鉄、造船のほか、物流では自動倉庫やクレーンなどの荷役設備が代表的な分野です。機械に関連する分野では、ほぼ全般的に実績があります。11人の営業担当者が九州・沖縄をカバーするほか、大型設備の設置などでは椿本興業もバックアップします。九州にある住宅設備や産業用ロボットの大手メーカーの海外展開もお手伝いしました。要望を投げていただければ、設備全体の課題を解決します」

―積極的にアピールしたい商品を教えてください。

「双腕の人協調型ロボットに、目となるカメラが内蔵された外観検査装置です。人の代わりとして、人間と同じ動作でボトルなどの目視検査が可能になります」

―今後どのような分野で業容を広げていく考えですか。

「九州は日本の縮図のようにほとんどの産業が立地しています。土地も豊富にあり、これからの成長性にも期待できます。九州の基幹産業の一つである自動車関連はすそ野が広く、常に受注を狙う分野です。さらに半導体やIT関連にも参入したいです。扱うものが精密かつ小型で、当社にとっては新規分野ですが、突破口さえあればやれる自信はあります。不況に強い食品分野にもお客さまを広げていきたいですね」

―顧客へのアピールポイントを教えてください。

「当社を含めたツバコーグループで掲げる〝Advanced Technology for Optimum Machinery（最新の技術を最適な機械に）〟という言葉に凝縮されていると思います」

―リアルな展示会への期待はありますか。

「展示会は今後も必要です。ビジネスを突き詰めれば、人対人のものですよね。製品の良さをお客さまに説明する場合に、パソコンの画面で見るのと実物を見るのとでは伝わり方が違います。一方でデジタルは時間や距離の制限がありませんからリアル展示会との使い分けで両立していくでしょう」

（福岡市博多区）